

スポーツを通じて地域振興に大きく貢献

日本海新聞ふるさと大賞2014表彰式



松本さん（左から2人目）と小谷さんは親子で



受賞を喜ぶD・O・スポーツの皆さん

県内の地域発展やスポーツ振興に功績のあった人を表彰する、日本海新聞ふるさと大賞・日野町の部の表彰式が、2月27日、町役場で開かれました。今回は、地域貢献賞にD・O・スポーツ（森田勝彦会長）の皆さんが、スポーツ功労賞に松本美紀さん（高尾）と小谷真由さん（津地）の2人が選ばれ、賞状と記念品が贈られました。

D・O・スポーツは、平成8年の設立以来19年間にわたり、総合型地域スポーツクラブとして、各種スポーツ教室やスポーツ大会を自主的に開催するなど、地域スポーツの振興に貢献。鵜の池マラソン大会の招待選手招聘や講演会を開催し、普段ふれることのできない経験を地域に提供していることが認められたものです。

松本さんと小谷さんは、ともに米子松蔭高等学校3年生。小学校からソフトテニスに励み「第43回ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップ・ソフトテニス大会2014」の女子ダブルスで山陰勢初の全国優勝を果たしました。全国優勝をはじめとした数々の大会で収めた好成績が、学校関係者のみならず町民に勇気と感動を与えたことが認められたものです。

会場全体を包む元気な歌声

アイターンミュージシャンによるトーク&コンサート



「地域にエールを送りたい」と光GENKIの皆さん



歌とトークで盛り上げる森田さん（左）と白築さん

2月22日、町老人福祉センターで、アイターンミュージシャンによるトーク&コンサートが開かれました。

これは、アイターンミュージシャンにアイターンの動機や田舎暮らしの魅力語ってもらい、自分たちの住む地域の魅力の再発見と、みんなと一緒に歌うことで、元気になつてもらおうと、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）が企画したものです。

当日は、アイターンミュージシャンの白築純さん（島根県雲南市在住）と森田さやかさん（南部町在住）の2人が、来場者約50人と「春の小川」などの童謡やわらべうたを歌いました。歌の合間には、2人が感じた田舎暮らしの良さを冗談を交えながら話し、会場からは大きな笑いが起こっていました。

また、コンサートの前には、21日と22日の2日間、地域おこし協力隊の眞崎愛さん（上菅）宅を訪れていた、眞崎さんと同じ九州大学の学生で構成されたアイドルグループ『光GENKI』の5人が飛び入り参加。若さと元気あふれる5人の歌とダンスに会場からは手拍子や歓声が上がするなど、大きく盛り上がりしました。



盛りだくさんの催しに地域の交流が深まる

下黒坂自治会で講演会

冬の1日をみんなでにぎやかに過ごし、家族のきずなや地域の親睦を深めようと、2月15日、下黒坂ふれあい会館で、平成26年度下黒坂講演会が開かれました。

まず、第1部として、南部町から細田真知子さんと田村梓さんを講師として招き『笑いヨガ』を行いました。これは、笑いとヨガの呼吸法を組み合わせた健康法で、笑うことでたくさんの酸素を取り入れることができ、心身ともにすっきりするというものです。笑い声が響く会場で、来場者は講師に合わせ思い思いに体を動かしていました。

第2部では、ホールと共に歩む



「笑えば悩みも不安も解消されますよ」

会（木島泰会長）の共催で、米子市から永井達也さんを招いて『出前うたごえ喫茶』が開かれ、永井さんの軽やかなギターに合わせ全員で歌を歌いました。

永井さんは「みんなで歌えば笑顔になるしストレス発散にもなります」と話し、懐かしい流行歌や童謡のほか、来場者のリクエストにこたえて「北国の春」や「川の流れるように」などを来場者と一緒に楽しみました。

最後は、講師も交えみんなで食事をしながら交流し、寒さを吹き飛ばすにぎやかな1日となりました。



「みんなで歌おう」と永井さん

旅の良いところ、旅する気分を味わって

田中さん夫妻の世界一周旅行記出版記念イベント



写真を交え、旅の思い出を語る田中さん

町内在住の田中正之さん・愛子さん夫妻が、2013年4月から翌年3月にかけて行った世界一周旅行の記録をまとめた「さまよえる田中」出版記念イベントが、2月11日、町文化センターで開かれました。

当日は、出版までの経緯や旅先で味わった料理が写真とともに紹介され、参加者は田中さんに質問などをしながら興味深そうに耳を傾けていました。また、会場には軽食も用意され、参加者は田中さんとの会話を楽しみ、和やかな雰囲気になりました。

心に染み入る歌と音色

民謡と日本音楽の会

外出する機会の減る冬に、みんなで食事をとりながら集まる機会をつくりたいと、2月19日、菅福公会堂で、民謡と日本音楽の会が開かれました。

これは、町地域おこし協力隊の眞崎愛さんと石村勇人さんの主催で開かれたもので、菅福地区の住民を中心に約40人が来場しました。

当日は、伯耆江美寿会（米子市）による民謡や長持唄、尺八や三味線の演奏が行われ、参加者は時折歌を口ずさみながら楽しんでいました。眞崎さんは「春にもこういう会を開きたい」と抱負を語りました。

尺八の音色と伸びのある歌声が会場を包む

